



英靈にこたえる会
102-0073 東京都千代田区
九段北 3-1-1
靖國神社遊就館内
電話・FAX
03-3261-7415
メールアドレス
eirei@deluxe.ocn.ne.jp

靖國神社への総理及び閣僚の
公式参拝を定着させ
天皇・皇后両陛下の行幸啓を
仰ぎましよう

戦友と日本人に捧ぐ

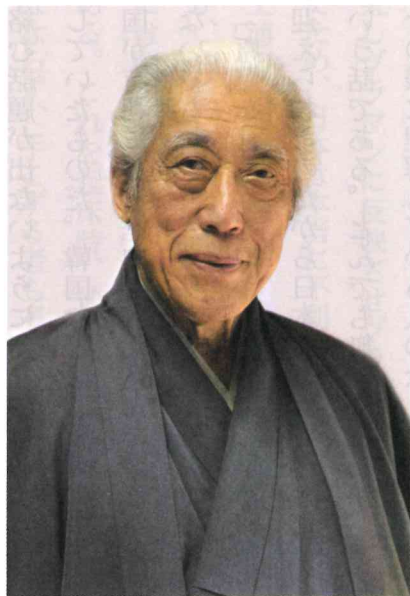
|| 特攻隊の思い出 ||

裏千家 十五代・前家元
英靈にこたえる会 参与

千 玄室

今の若者も頼もしい

私の周りを見ても、今の若者にとって大東
亜戦争は歴史上の出来事でありその本質を知



ろうとしている人は少ない。それぞれの国に
より教育の仕方は違うが、その国のモチベー
ションをしっかりと教えているのに日本はそれ
が出来ていない気がする。

私が会長を務める（公財）日本国際連合協
会では、二〇一〇年から日本・中国・韓国の
大学生を対象に、それぞれの国の持ち回りで
ユースフォーラムを開催している。二〇一九
年夏に東京で第十回を開催した後、コロナ感
染症の為やむなく中断しているが、対面での

交流が出来るようになった暁には是非とも再
開したいと思っている。

始めた当初は、韓国との間で慰安婦問題が
再度クローズアップされていた時期であった。
中国や韓国は、国際情勢や国連に関心が高い
一つの大学のクラスやゼミの学生をメンバー
として組んで来ていたが、我々は敢えてそう
せず全国から応募を募り選別した学生でメン
バーを決めていた。その為、英語力にしても
慰安婦問題をはじめとする国際問題に関して
も、少々覚束ない感が否めなかった。

しかし、この十年の間に学生達の意識が高
くなって来たのには本当に驚かされている。
英語力も格段に上がり互角に中国や韓国の学
生と討議している様子を見ると、まだまだ日
本も大丈夫だと思える。最初の頃、学生達に
は討議の場は勿論、食事の時などでも戦争に

絡む話題が出ないように気をつけるよう注意していたものだ。韓国などは、教育の中で自国が有利になる歴史を教え込んでいる気がしないでもない。アメリカで良く耳にするのが

「原爆を落としてやったために、早く終戦を迎えられたのだから日本は感謝すべきだ」という話である。とんでも無いことだが、実際その様に理解している人のなんと多いことか。原爆による悲惨な被害を知らないのだ。広島や長崎が受けた被害を目の当たりにした時、人々は皆言葉を失い、いかに自分たちが無知であったかを知るのである。

日本は戦争に負けたからか、または特有な国民性の故か、原爆の被害者やソ連に抑留された人達は、他の国々の様に声高に何度も賠償を求め

動きが多く出ていると聞くが、誠に頼もしい限りである。

戦争体験を語る

しかし、実態を語る人々は確実に減っている。私の同期も、もう何人も残っていない。そもそも戦争経験者は、その体験が悲惨であればあるほど口を閉ざして人生を送っていたであろう。私自身も長い間、戦争その中でも特に特攻の話をしたことは無かった。家族にさえも詳しいことを話す事もしなかった。しかしこの頃は、私が話さなくては、若くしてまだまだしたいことが沢山あったであろう。特攻で亡くなった同期のことを誰も知らないままになってしまふ、命のある限り伝えること、それが私が生き残った使命だと考えるようになった。

学徒出陣

私が大学に入った当時は大学の数も今のようになかったが、入学と同時に徴兵猶予願いを提出すると卒業までは徴兵されずに

勉学にいそしむ事が出来た。しかし二年に上

がる時、戦局は悪化の一途で兵力が足りなくなり、文系の学生は徴兵猶予取消しとなった。所謂、学徒出陣である。理系の学生は戦後の事を考えそのまま大学に残る事が出来たのだが、今更理系に行くこともならず、徴兵検査を受けた。当然、健康で体格も良かったために合格し陸軍と海軍とに振り分けられたのだが、私は伯父が海軍軍人だったため海軍に志願し、それが通り入隊となった。

出陣式は京都の植物園グラウンドで雨の中行われた。

その後、舞鶴の海兵団に入団し基礎訓練を受け土浦に移った。ここで試験に次ぐ試験や適性検査でふるいにかけられるのだが、この試験が風速や風向きから進む角度を割り出す様な所謂、理系の試験であり、理系が苦手で文系に進んだ身には本当に大変であった。皆の成績があまりに酷かったため、教官をして「本当に大学生なのか」と呆れさせた程であった。

しかしどうにか試験を突破し、晴れて第十四期海軍飛行専修予備学生として徳島の基



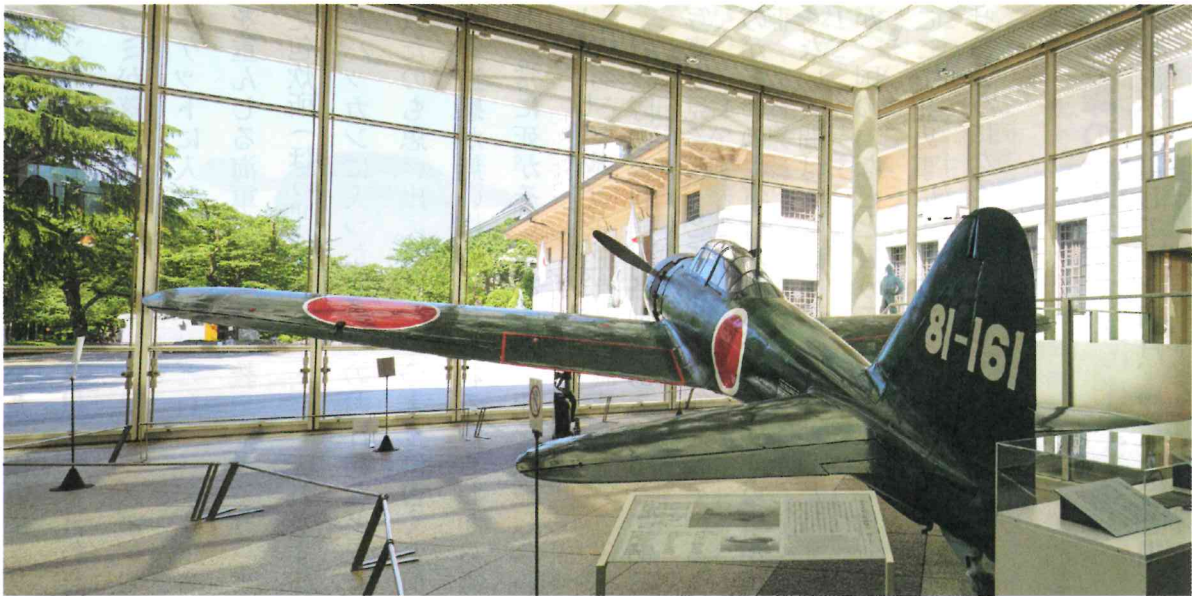
この頃は高校生や大学生が中心になり、戦争の実態を記憶しておこうという

地に配属され少尉に任官した。

飛行機乗りへ

私は戦闘機を希望したが、身長が高い上、落下傘に座るので風防がいっぱいになり、結局偵察機に廻された。靖國神社の遊就館の正面に置かれている零戦をご覧になった方も多いと思うが、あの美しい形、そしてビスがしっかりと打ち込まれて風の抵抗を受けない様になっていることにお気付きだろうか。上昇の速度は非常に早かった。しかし機体の軽量化の為、乗員の安全は二の次であり操縦席の背面にアメリカは鉄板を入れていたのに対し零戦は軽金属しか設置されていなかった。その上、戦争の早い時期にアメリカは撃墜したほぼ完全な形の零戦を引き上げ、その性能を研究しグラマンに反映させグラマンFを作成したため、日本は本当に不利になってしまった。土浦の航空隊では洗濯も勿論自身でするので、名だたる空っ風で干した物が氷付く寒さには閉口した。そして寝るのはハンモックである。これを起床時、速やかに片付けなくてはならず、手こずる者も多かった。

遊就館の零戦



徳島で少尉に任官してからは、従兵が付き身の廻りの世話をしてくれた。訓練は、「通常一年半かかるところを十ヶ月で身につけろ」と言われ厳しいものであったが、一歩間違えれば死ぬのであるからそれも当然であろう。二言目には「貴方達は、死にに來たのだ」と言われ続けたが、それだけに食事は戦時中であつたにもかかわらずまじであつた。しかし家族が面会に持ってきてくれる甘味はやはり特別な物であり嬉しく、皆と分け合い食べたものだ。

また、その時の主計長が「大学半ばで来たのだから、読みたい本があつたら遠慮せずと言いなさい」と言ってくれた。勿論、反社会的な本は駄目であつたが、読みたい本を取ってもらえた。

軍隊であるから規律正しいのは当然であり、基地での訓練であっても艦上と同じ呼び方で右舷、左舷と組分けされ「本日は右舷上陸」と言われると、その組が基地から外出出来ると言う意味であつた。起床時は「総員起床5分前」の号令がかかり速やかに行動出来る心

の準備をするのである。この習慣は七十七年
たった今も私の体に刻みつけられている。

訓練中は後ろに乗った教官から叱責される
のだが、操縦を茶道の点前と同様に考えると
スムーズに出来るようになり、その上、私は
大学時代に水上機の操縦を習っていた為、一
番に単独飛行が出来た。しかし、訓練飛行か
ら基地に戻ると、下で見ていた教官に呼ばれ、
「股、開け」で殴られるのである。

仲間

私は、煙草も酒も嗜まなかったが、少尉に
なると配給があった。それを整備兵に渡した
のだが、「少尉の機は任せて下さい」とそれ
は丁寧に整備してもらった。それこそビス一
本でも抜かれたら大変なことになるのだから
整備兵は大切にしておかななくてはならない。
時に陸軍の戦闘機が整備不良で緊急着陸し、
整備しなくてはならないことがあった。陸軍
は敵国語である英語を一切使わず全て日本語
に置き換えていたが、海軍は七つの海を制覇
する意気込みで英語を使い続けていたために

意思疎通が大変だったと聞いた。因みに「ズ
ボンのポケットはゴミ箱だと思え」と言われ、
ゴミが落ちていた時は素早く拾い、ズボンの
ポケットに入れたものだ。これもスマートさを
を重んじる海軍ならではの教えであろう。ま
た包炊所（ほうすいしょ）にも差し入れをする
とバツカンに入った餅入りのお汁粉などをく
れたのも思い出に残る。このように書くとい
か緊迫感が無い様に感じられるかもわからぬ
が、常に死がそこにあるが、死を意識しない
ようにしていた気がする。

特攻隊の資料館が各地にある。そこにある
写真を見ると、とても良い笑顔をしているも
のが多いのに気付かれるだろう。死ぬ事が怖
くない人間はいない、誰もが怖かったはずだ
が、国の為などと言うことでは無く、自分が
ここで死ぬ事により愛する家族が恙なく暮ら
せるようになるのだと信じて特攻していった。

特攻隊の現実

戦況が緊迫してきた四月、総員集合と集め
られ、「これから特別攻撃隊編成の希望を取



る」と言われ紙を配られた。そこには、熱望・
希望・否と書かれており、官姓名を明記しな
くてはいけないのだから、私は「熱望」に二
重丸をつけた事は言うまでも無い。

その数日後、また総員集合がかかり「皆、
特別攻撃隊の編成になった」と告げられた。
それからは、さらに厳しさを増した訓練が行
われた。

訓練で徳島から進発し戻ってくるとそこに眉
山が見えてくる、「眉山、ようそろ」というの
が慣例であった。「ようそろ」とは海軍で宜し
く候の意味であるが、ほっとしたものであった。
沖繩攻撃の特攻は、夜間の進発になるので
その為の訓練もした。風防を墨で黒く塗り、
廻りが見えない状態で計器飛行をするのであ

る。その状態で急上昇、急降下を計器のみを頼り操縦するのは本当に覚束ない心持ちであった。

下士官でもベテランの教員からは「敵に後ろに着かれることだけは避ける」と言われ、さらに「もう教えることは何もありません。卑怯と言われても、急上昇するなり雲の中に入るなり、ともかく逃げて死なないように。それ以上の技量を持っていないのですから」と言われた。数年前に映画化もされ話題になった「永遠の零」はまさに私達のことだと思う。その後、特攻進発の為、九州の鹿屋に転属した。陸軍の特攻基地の知覧は錦江湾を挟んだ向かい側に位置する。余談ではあるが真珠湾攻撃の折、錦江湾が真珠湾の地形に似ているため、ここで訓練を行ったことをご存じであろうか。

さて、鹿屋に着いてみると各地から集まった艦上攻撃機、艦上爆撃機をはじめとする攻撃機で一杯であり、我々は急遽作られた串良の基地へ移動せざるをえなかった。串良は急拵えの為、何もかも不足していた。

献茶

ここでの飛行訓練後、同期と一緒に持参していた携帯用の茶箱で一服のお茶を点てた。茶箱の携帯が許されたのも海軍だからである。陸軍では到底許されなかったと思う。

この折り「生きて帰ったらおまえの家の茶室でほんまもんのお茶のませてくださいよ」と言われた。この時、背筋がすうつとなった。本来「白菊」は偵察機として非常に有能な機であったが、これを攻撃機に改造し、両翼の下にそれぞれ二五〇キロ爆弾を装着し、信管を抜いて進発するのだから生きては帰れない。この事



をはつきり事実として突き付けられた一瞬であった。

その後、次々に皆進発していった。沖縄攻撃は夜中過ぎの進発となるため、夕方命令が出されるが、雨の日は命令が出ないので皆ほつとしていた。命令が出ると持ち物を整理し書いておいた遺書を託すのであるが、私もかつて書いた遺書を持っている。そして夜間、杯で酒を飲み、それを地面に叩き付け機上の人となった。残る皆が集まってくれる付近の方々と「帽振れ」と言ってこれを見送った。

本来、二人一組の進発であるが少年兵上がり年端もいかないのと組んだ時、命令違反ではあるが強引に残して進発していった者もいた。

奄美大島を出た辺りから制空権をアメリカに握られおり、海上からや空中からの攻撃が待っている。沖縄までたどり着けた機は果たしてどのくらいいたであろう。今も、慶良間列島の海中には多くの戦友が眠っている。節目ごとに、海上自衛隊の協力を得ながら沖縄の海上で慶良間列島に向かい慰霊のお茶を献げている。一碗のお茶が海中に沈み海面が

緑に染まると、その中から亡き戦友の声が聞こえてくるのだ。

敗戦そして戦友への思い

敵艦を発見し体当たりする時には「我、敵艦発見。これより突撃す」と打電しそのまま電信機を押し続けて体当たりするのであるが、ツツという音が途絶えた時が最後の時となる。

出撃は家族にも伏せられていたため、出撃後に基地に訪ねて来られると、対応しても本当の事を伝えられなかった事が心に残る。

名札が外され、食事をしていた場所が次々に空いていく中、何回も嘆願したにもかかわらず、私は待機命令のまま松山の基地へと転属し、中尉として終戦、私からみれば敗戦を迎えた。

密命が出ていると言うことで蚩池の飛行場まで戻ったが、そこも敗戦処理でごたついております、取り敢えず帰宅するようにと言われ京都へ戻った。帰宅が遅れたため、家では私はどこかで戦死したのであるうと思われていたらしい。

戦後の一時期は、生きて帰ってきたことに忸怩たる思いしか持てず、前を向くことが出来なかったのであるが、父が、やって来る米兵に、確たる態度で茶道を指導している姿を見ている内に、確かに戦争には負けたが文化では負けてはいないと感ずるようになり、戦後七十七年間「一盃(いちわん)からピースフルネスを」と世界を回っている。

口々に、平和と言っているがそれだけでは平和は来ない。と言うより「平和」という言葉を使わないで済む世の中にしていかなくはならない。今も私の背後にいる亡き戦友の思いをしっかりと受け止め、これからもこの身が続く限り戦争というものの悲惨さをご存じない方に伝えていくことが、残された者の使命であろうと思っている。

毎年十月四日に靖國神社でお献茶を奉仕させて頂くが、いつも一碗を献げるとき爽やかな風が吹き抜けるのを感じる。

「靖國で会おう。先に行って待っているぞ」と言った仲間には、今しばらくの時間を待っていて欲しいと願う。



堀江正夫名誉会長のご逝去について

英霊にこたえる会第三代会長で、名誉会長の堀江正夫氏が令和四年三月二十日、老衰のため、一〇六歳の天寿を全うし、ご逝去されました。

堀江名誉会長は、平成八年から平成二十一年までの十三年間、英霊にこたえる会会長として、会の充実発展に大きくご貢献されとともに、「戦友を祖国につれて帰りたい」という、執念とも言える強い意志を持って、遺骨収集のために国を動かして来られました。

昭和二十年八月、第十八軍参謀（陸軍少佐）として、東部ニューギニアで終戦を迎え、復員後、陸上自衛隊に入隊、西部方面総監（陸将）を最後に退官、参議院議員二期十二年を勤め上げ、その後は英霊の慰霊顕彰と遺骨収集に尽力されました。

堀江名誉会長のご功績を称え、在りし日の

お姿を偲び、心からの哀悼の誠を捧げたいと思います。

英霊にこたえる会 中央本部 事務局



第 41 回総会で講演される堀江名誉会長（平成 27 年 4 月 23 日）当時 99 歳

堀江名誉会長の略歴

- 大正四年（一九一五）六月十六日 新潟県生まれ
- 陸軍幼年学校（三十四期）、陸軍士官学校予科を経て
- 昭和十二年（一九三七）十二月 陸軍士官学校本科（五十期）卒業
- 昭和十三年（一九三八）十二月 歩兵第十一連隊中隊長
- 昭和十八年（一九四三）十二月 陸軍大学校（五十七期）卒業
- 同 第五十一師団参謀
- 昭和十九年（一九四四）三月 陸軍少佐
- 五月 第十八軍参謀
- 昭和二十年（一九四五）八月 東部ニューギニアで終戦
- 昭和二十七年（一九五二）警察予備隊入隊
- 昭和四十四年（一九六九）陸将に昇任 第三師団長
- 昭和四十六年（一九七二）陸上幕僚副長
- 昭和四十七年（一九七二）西部方面総監
- 昭和四十八年（一九七三）陸上自衛隊退官
- 昭和五十二年（一九七七）平成元年（一九八九）参議院議員 二期十二年間
- 参議院 安全保障特別委員長、外務委員長など歴任
- 平成元年（一九八九）平成十一年（一九九九）日本郷友連盟 会長
- 平成八年（一九九六）平成二十一年（二〇〇九）英霊にこたえる会 会長
- 平成二十一年四月、英霊にこたえる会 名誉会長

靖國 カレン ダー

英霊にこたえる
一億国民のこころを結集しよう

昭和天皇御製
山山の
色はあらたに
みゆれども
わがまつりごと
いかにあはらむ

皇后陛下御歌
祈し
任まひとされる
吹上の
窓から望む
大樹のみどり
皇嗣殿下
窓越しに
子ら駆け回る
空を見
心とめて
くるを確かむ

御製
世界との
往き来難かる
世はつづき
窓聞く目を
偏に願ふ

令和四年歌会始御製御歌
御題「窓」

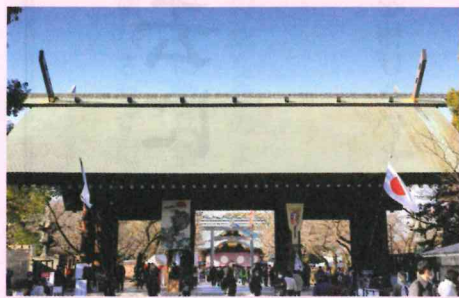
1							2						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					29	30	31				

英霊にこたえる会

靖國カレンダー発行所 〒110-0073 東京都千代田区千代田1-1-1 靖國神社総務部
TEL: 03-3264-4810 FAX: 03-3261-7415
E-mail: eireinikotaeru@deluxe.ocn.ne.jp
郵便振替口座番号: 00160-2-70431 口座名: 英霊にこたえる会 靖國カレンダー発行所

▲これは縮小版です。原寸は縦50×横35cmです。

- 靖國神社への総理・閣僚の公式参拝を定着させましょう
 - 靖國神社は、我が国の戦歿者追悼の中心的施設である」
 - 国家、国民がこぞつて戦歿者英霊に感謝の誠を捧げましょう
 - 英霊顕彰の国民運動の輪をひろげましょう
- 「靖國カレンダー」を一家に一部掲げましょう



1-2 月 靖國神社初詣風景



3-4 月 靖國神社の桜



5-6 月 御祭神37,800余柱・岐阜護國神社



7-8 月 令和3年靖國神社みたままつり (毎年7月13日~16日)



9-10 月 御祭神64,000余柱・長野護國神社



11-12 月 レイテ島の夕陽



英霊にこたえる会

HP: <https://www.eireinikotaru.com>

■ 問い合わせ

電話・FAX : 03 (3261) 7415
email: eirei@deluxe.ocn.ne.jp
郵便振替: 00160-2-70431